



平成 27 年 7 月 3 日
秋草学園高等学校 図書館

2015年、今年ももう少しで夏本番となります。図書館では、今年の夏も先生方をお願いし、みなさんに夏の推薦本をたくさん紹介していただきました。先生の紹介文を読んでも、普段はなかなか手に取らないジャンルの本にも「こういう本もおもしろそうだな。読んでみようかな」と興味が湧いてきます。推薦された色々な本を手にとって、読んでみてください。先生方が紹介して下さった本は図書館に展示をしています。読み終わった際には、その本を紹介して下さった先生と楽しく語らいのひとときを過ごしてみてください。

図書館では、7月1日(水)より夏の長期貸出を始めました!冊数は**5冊まで**、返却日は**9月2日(水)**です。長期貸出を有効に活用して、いつも以上に読書を楽しんでください。

小久保校長先生のおすすめは…

①914.6-エ 『人生には何ひとつ無駄なものはない』 遠藤 周作 || 著 朝日新聞出版
遠藤周作・弧里庵先生が今まで書いてこられた著作から鈴木秀子さんが殊玉の言葉を選んで編纂された本です。実に多彩な内容であるとともに、各章の表題に優しさが溢れています。「プラスにはマイナスがあり、マイナスにはプラスがある」、「自分の弱さを知るものは他人の哀しみに共感できる」「不幸がなければ幸福は存在しない」等、将来が見えなく迷った時、つまずきを感じた時、この本を手にとってもらいたいと思います。きっと胸に深く響くでしょう。

②289.1-ヨ 『吉田松陰「人を動かす天才」の言葉』 楠戸 義昭 || 著 三笠書房
吉田松陰は、思想家、教育者でもあり長州藩に仕えた日本武士です。明治維新の激動の時代のなかで、高杉晋作や桂小五郎などの近代日本を作るために活躍した人達の育成に力を注いだ人物ですが、現代人にとってもためになる言葉を多く残しています。「一日に一つ学べば一年で360の知識が得られます。(太陰暦だから360個)もし、1時間サボると、百歳まで生きたとして約四年あまりの時間を失います」さらに、「学問は一人とは何か一を学ぶものである」等、「学ぶ」ことの大切さ、意義、自分が社会に対して何ができるか、何をなすべきかをこの本を通して学んでほしいと思います。

中村教頭先生のおすすめは…

①916-ミ 『私のひめゆり戦記』 宮良 ルリ || 著 ニライ社

本校の図書館で貸し出し可能な本です。宮良ルリさん、当時16歳の女子学生が体験した沖縄での地上戦の話です。宮良さんは、「ひめゆり部隊」に動員された一人。「ひめゆり部隊」とは、皆さんとほとんど同じ年齢の人たちが、1945年3月23日に沖縄で動員された「看護補助要員」の部隊のことです。正確には「沖縄師範学校女子部」と「沖縄県立第一高等女学校」の生徒222人、教師18人から構成されていました。

戦後70年が経ちました。今年、桔梗祭で「平和」をテーマに学習・発表する皆さんもいることと思います。沖縄で若き命を戦果に散らした沖縄戦とは何か、深く考えさせられます。(240人の「ひめゆり部隊」のうち、半分以上の136人が犠牲)

「ひめゆり部隊」の生き残りである宮良ルリさんから私はお話し聞き、改めて日本で唯一の地上戦が行われた沖縄の悲惨な状況に心が痛みました。看護師の資格も経験もない16歳の少女がある日突然、爆撃で傷ついた兵士たちの手当てや看病をする任務に当たる…。その時の戸惑いや不安、そして恐怖は、想像できますか。

まるで昨日の事のように語る宮良さん。看病をしていた両手を切断された兵士は、既に無くなったはずの手を握って欲しいと懇願、はるか故郷の北海道の母を恋しがりながら目の前で死んでいった…。

私たちはこのことから何を学ばなければいけないのか。6月23日を前にして、8月15日を前にして、毎年考えなければなりません。

②918-チ-6 『ちくま日本文学全集 坂口安吾』 坂口安吾 || 著 筑摩書房

本校の図書館で貸し出し可能な本です。

少々使い慣れていない言葉で書かれていますが、それが新鮮なのです。どうぞ日本文化や言葉をたくさん勉強したい方、必携・・・いや必読です。

浅見先生のおすすめは…

① 『ヤバいLINE』 慎 武宏/河 鐘基 || 著 光文社

日本人の4人に1人が毎日使っているLINE。個人情報が大ダダ漏れ?って知ってましたか。

② 『幸せを生む仏陀の言葉』 土屋 昭之 || 著 朝日新聞出版

「友達づきあい」で悩んでいる人へ

お釈迦様はとても良い言葉をいっています。



今井先生のおすすめは…

①913.6-ス 『君の臍臓をたべたい』 住野 よる || 著 双葉社

タイトルだけ見るとホラー小説という印象を受けますが、タイトルに惑わされないようにしてください。純粋な青春小説です。タイトルの意味はこの小説を読んだ最後にわかります。後半の40ページは涙なくしては、読めません。

②913.6-ハ 『キネマの神様』 原田 マハ || 著 文藝春秋

この小説は映画をモチーフとして人生を、仲間を、親子の絆を修復していく小説です。皆さんに紹介するには少し早いかと思いますが、ラストに胸が「ジーン」となります。生きることの意味や生きることの素晴らしさが、この小説から伝わってきます。

③410-カ 『東大の入試問題で「数学的センス」が身につく』 時田 啓光 || 著 日本実業出版社

「東大入試問題」というタイトルに恐れてはいけません。数学があまり得意でない人、受験に数学を使うけど、いまいち伸び悩んでいる人に特にオススメです。数学の問題は、どのように説いていくのかが、よくわかります。また、この本に載っている様々な論理の展開は、数学を使わない文系の人にもとても役立つはず。とにかく一度目を通してください。



伊藤先生のおすすめは…

946-フ 『夜と霧 新版』 ヴィクトール・E・フランク || 著 みすず書房

『心理学者、強制収容所を体験する』—これが本書の原題です。「人間とはなにか、生きる意味とは？」という問いに、極限の状態に追い込まれた筆者の出した答えとは…。世界中のロングセラーをぜひ一読して下さい。

稲本先生のおすすめは…

913.6-サ 『和菓子のアン』 坂木 司 || 著 光文社

タイトルに引き寄せられるように購入した本の1つ。とても奥深い、心にじわっとくる内容です。ちなみに読み終わった後、私は栗もなかと緑茶でほっこりしました…！！

大畠先生のおすすめは…

159-ミ 『人生はニャンとかなる!』 水野 敬也/長沼 直樹 || 著 文響社

猫好きにはたまらない1冊です。

68の猫が登場し、スタート・仕事・冒険・リラックス・習慣・コミュニケーション・希望の7つのカテゴリーに分けられている名言集です。

写真の猫に癒されたり、偉人の名言を読んだり・・・この本の活用方法は生徒のみなさん次第で広がります。

159-ミ 『人生はZOO(ずー)っと楽しい!』 水野 敬也/長沼 直樹 || 著 文響社

人生はワンチャンス!、人生はニャンとかなる!シリーズの第3弾です。

65種類の動物が登場します。スタート・挑戦・リラックス・仕事・コミュニケーション・ポリシー・愛の7つのカテゴリーに分けられている名言集です。

巻末には「動物たちの紹介」があり、気になった動物の名前や特徴も知ることができます。

太田先生のおすすめは…

『天女(アプサラ)たちの贈り物(マーヤー)』 鈴木 康夫 || 著 ぶねうま舎

「鈴木くんが本を出版したのを知ってますか?」6月7日、大学院時代の後輩から話を受けた。「えっ、鈴木くん?」「ほら一緒に千鳥ヶ淵、日本武道館のところで花見とかしたじゃないですか」「えっ、あの素粒子の鈴木くん?」「そうですよ、大型書店で出版記念のトークショーやサイン会もやっているみたいですよ」「えっ、物理の本で?」「いや、SFファンタジーですよ」「えっ?エッ!!」

宇宙の姿について、現在の宇宙論は「ビッグバンにより膨張が始まり、今この瞬間も宇宙空間は広がっている」と考える。それなら、宇宙に終わりはないのか?この疑問に宇宙論はこたえる。「もし宇宙がある条件下にあれば、いずれは収縮に転じ、『宇宙崩壊(ビッグランチ)』という終焉の形をむかえる」のだと。

この本は、素粒子物理の研究者が最先端の物理学をもとに書いたサイエンスフィクション(SF)である。ファンタジー好きの多くの生徒が、宇宙に、そして自然科学に興味を持つきっかけになる本かも?しれない。この夏、ペルセウス流星群に願いをかけたあと、ぜひ手に取ってもらいたい一冊だ。



小櫃先生のおすすめは…

①913.6-ホ 『バイロケーション』 北条 遥 || 著 角川書店
「私の代わりはいくらでもいる。」「わたしはオリジナルになれない」……。社会状況からか、そのような自己同一性(自分らしさ)の危機を「分身」という題材で描いた作品が現在増えています。自分が世界でかけがえのない一人である訳ではなく、誰かが自分の代わりを務められるかもしれない、社会に自分の居場所はなにのかもしれない、という恐怖を自分が二人いることで表しているのです。そして、特に切実さと特性を似てその主題を描いたのが、法条遥「バイロケーション」であるように、自分には思われます。



バイロケーションという分身と争う主人公の姿は、独りで貧しさに耐えながら社会的成功・自己実現を目指す自己と、結婚生活を送る家庭的な存在としての自己とに引き裂かれた女性の姿を象徴しています。小説は当初、後者の視点から物語を描くことで家庭に閉ざされた女性の鬱屈を描いていくのですが、それがどのような結末を迎えるのかは読んでみて確かめてください。皆さんにとっても他人事ではない現代の問題を切り取った作品で、僕はその切実さに心を打たれました。

②B913.6-マ 『好き好き大好き超愛してる』 舞城 王太郎 || 著 講談社

授業では取り扱うことのない、現代文学ってどんなもの？を知る一歩として、森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』とこの作品をお勧めします。(『夜は短し歩けよ乙女』は少し難しい言葉も出てきますが、言葉のリズムが跳ねて作品が転がっていく感じが楽しい作品でお勧めです。)

題名とライトノベルをふまえたであろう作中作品から、芥川賞を取れなかった作品ですが、題名の印象に反して普遍的なテーマが丁寧に描かれています。言葉を用いて表現するとはどうゆうことなのか、自分の元から去ってしまった人にどう向き合うのか、といった主題が、繰り返し繰り返し言葉を紡いで物語を語る、小説家の営みの中で描かれていくのです。そして、そのありきたりな物語の枠組みが、逆に人の記憶や思いの儚さを浮かび上がらせていきます。そこに、多くの先行作品がある現代において、「表現」することとはどういったことなのか、が刻印されているように自分は思えました。

何かを表現したい、という気持ちがある人はぜひ手に取ってみてください。

栗山先生のおすすめは…

913.6-ミ 『サファイア』 湊 かなえ || 著 ハルキ出版

宝石にまつわる恋愛短編集です。すべてがハッピーエンドでなく、ちょっと私には理解しにくい恋愛話もありましたが…。そんな短編集の中で「ムーンストーン」という話を推薦します。この話は女子の微妙な心理状態や友情が描かれており、とても読みやすいと思います。またラスト2話「サファイア」と「ガーネット」はこの短編集の作者湊かなえさんらしい描写で、彼女のファンは必見だと思います。

白坂先生のおすすめは…

913.6-ナ 『神様のカルテ』 夏川 草介 || 著 小学館

シリーズ全巻おすすめです。

「人に優しくなりたい」「身近な人を大事にしたい」読んだ後、そんな風に思える作品です。

関先生のおすすめは…

289.1-セ 『30ポイントで読み解く吉田松陰「留魂録」』 安藤 優一郎 || 著

PHP出版社

「身はたとひ むさしの野辺に 朽ちぬとも 留め置かまし 大和魂」

吉田松陰が残した「留魂録」の冒頭に示された歌である。わずか30年の生涯であったが、その影響は時代を変える力となって現れた。その松陰の思想を興味深くとりあげた本である。同時に高杉晋作や桂小五郎、伊藤博文、山形有朋、前原一誠など15人の弟子達をあげて、松陰の思想がどのように活かされたかを紹介している。日本史学習の上でも興味深いので、一読をすすめたい。

鈴木先生のおすすめは…

371-ス 『若者の法則』 香山リカ || 著 岩波書店

自分がことごとくこの「若者の法則」に当てはまり、“自分はまだ若いんだ！”と喜ぶ反面、“自分はこの法則に当てはまってしまうような単純な若者なのか…”と落ち込んでしまいました。

あなたも、この法則に当てはまる若者なのか、それとも当てはまらない若者なのか、一度調べてみませんか？

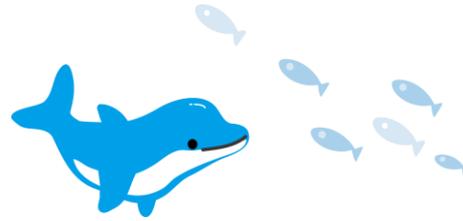


利根川先生のおすすめは…

①914.6-ア 『聞く力 心をひらく35のヒント』 阿川 佐和子 著 文藝春秋

最近何かと「コミュニケーション力」という言葉が飛び交いますが、コミュニケーションは「伝える、表現すること」だと勘違いしている人に読んで欲しいです。

だって、聞いてくれない人に話をする気にはなりませんものね。そういう意味で読みやすいのでおすすめです。



②913.6-サ 『ぼくは悪党になりたい』 笹生 陽子 著 角川書店

破天荒な母と天真爛漫な弟。弟が熱を出したことからいつも「貧乏くじ」をひいている感のあるぼくが修学旅行に行けるようにするために…

いまっばい話を描いているのですが、考えさせられました。

③910.2-セ 『教科書では教えてくれない日本文学のスズメ』 関根 尚 著 学研教育出版

実はまだ読んでいないのです……積ん読 文豪のエピソード満載なので読んで文豪を身近に感じるのにいいと思われまます。

長野先生のおすすめは…

①913.6-ミ 『よろこびの歌』 宮下 奈都 著 実業之日本社

これといった特徴のあまりない私立明泉女子高校。でも、そこに通う玲、千夏、中溝さん、史香、佳子たちは、それぞれの思いを抱えながら、何かを見つけようともがき、誰かと出会っていきます。

巻頭の表題作はしびれたなあ…。

②304-タ 『ぼくらの民主主義なんだぜ』 高橋 源一郎 著 朝日新書

たくさんの、異なった意見や感覚や習慣を持った人たちが、一つの場所でやっていくためのシステム。民主主義とはそのシステムのことでないか。だから独裁者は、きっと民主主義が大キライ。

③332-ミ 『資本主義の終焉と歴史の危機』 水野 和夫 著 集英社

皆さんの子どもが大学生になる頃、世の中から資本主義は消えてなくなっているかもしれません。1%の富が増え続け、世界の大多数の人を貧困に陥れる「強欲資本主義」の圧はどうなるのか、と考えるのもたまにはいいかもしれません。

堀内先生のおすすめは…

723-ニ 『「世界の名画」謎解きガイド』 日本博学倶楽部 PHP出版

世界に「名画」と言われる絵画は無数にありますが、なかでも最も高い人気を誇る絵画の中には、人々の好奇心をひきつけてやまない「謎」があります。巨匠たちが絵画に隠した秘密の謎解きをしながら、名画を隅々まで眺めることも楽しみの1つです。イタリアのミラノで鑑賞した「最後の晩餐」は感動的でした。この「最後の晩餐」にも、レオナルド・ダ・ヴィンチのメッセージが記されているといひます。作者が伝えたいことを考えたり、謎を解き明かして鑑賞するとさらに楽しいですよ。

丸山先生のおすすめは…

361-ノ 『差別と日本人』 野中 広務/辛 淑玉 著 角川書店

世の中には様々な差別があります。人種差別・男女差別・病気の差別・国籍差別等々。近頃ではヘイトスピーチ(憎悪に基づく差別的言動)が急増しており、問題視されています。本書は差別に苦しんだお二人が差別の実態について語っています。ぜひ、本書を手にとってもらい、私たちはどうあるべきか、どう生きるべきかを考えてほしいと思います。現在、国会では「安保(戦争)法案」の審議が大詰めに来ています。差別により戦争がはじまり、戦争により新たな差別を生みだしています。この問題も真剣に考えなければなりません。

三ツ木先生のおすすめは…

913.6-ヒ 『流星の絆』 東野 圭吾 著 講談社

やっぱり東野作品。はずしません。グイグイ引き込まれどんどん読み進みます。3人兄妹の絆が最後まで強く繋がっているからでしょうか。犯人は一体誰なのか?そうくるのか?いや、犯人は信じられないけれど…やっぱりその人か!!と一人でドキドキハラハラ…面白いです。



湯本先生のおすすめは…

①914-シ 『二十一世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎 著 世界文化社

歴史小説家の司馬遼太郎が子ども向けに書いた随筆です。子ども向けですので、読んでもわからないような難しいことは一切ありません。短く、誰にでもわかる言葉で、これから生きるすべての人に共通することが書かれています。21世紀を生きていく皆さんに、是非読んでもらいたい一冊です。

②913.6-サ 『一瞬の風になれ』 佐藤多佳子 著 講談社

「高校生活、充実させなきゃもったいない!」という気持ちにさせてくれる一冊です!

結城先生のおすすめは…

①B913.6-オ 『ライオンハート』 恩田 陸 || 著 新潮社

例えば、「モナ・リザ」という有名な肖像画^{しょうぞうが}があります。黒い服を着て、手を組んだモデルが、森や橋の広がる風景を背にして、何やら意味深な笑みを浮かべてこちらを見えています。このモデルは一体何者なのか？場所は何処なのか？一様な疑問が浮かんできますが、貴族の奥様だとか、お腹をかばった妊婦だ、画家（男性）の顔を女にして描いたものだなんていう人もいます。想像するのは自由なのです。

さて、この本にも5枚の絵が出てきます。作者はそこから想像力を広げて、時代と場所を超えたロマンチックなSFラブストーリーを描きました。皆さんは5枚の絵にどんな世界を夢見るでしょうか？

②B913.6-イ 『スティル・ライフ』 池澤 夏樹 || 著 中央公論新社

チェレンコフ光を知っていますか？この本の登場人物・佐々井はバーでグラスをじっと見つめ、その光を見ようとしていたりします。何だ理科っぽい小説か、と思うかも知れませんがそんなことはありません。

主人公「ぼく」の前にあらわれた「佐々井」という男。彼と過ごすうちにぼくの世界を見る目が変わっていく。そしてある計画を打ち明けられたぼくは—

セミ時雨に耳を傾けたり、遠い星を眺めたりすることは、自分の外にある世界と内側に広がる世界にうまく連絡をつけることになるのです。…何だかまだよくわかりませんね。読んでみて下さい。

鈴木司書のおすすめは…

①933-モ 『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス || 著 早川書房

山下智久さんがでていたTVドラマの原作です。小説にはドラマにはないしかけもあり、また感動のラストもドラマとは違う展開を見せます。さらに、主人公の発するアルジャーノンへの思いのこもった最後の言葉に、誰もが涙・涙・涙することは確実です。最初にこの本を読んだとき、この言葉だけでなぜ自分が泣くのかわかりませんでした。わからないまま、ただ涙が出てくるのです。でもある時、タイトルを見ていて気付いたのです。そうか、アルジャーノンは主人公そのものだったのか、と。

普通の小説と違って主人公によって書かれた報告書の形になっているので、とっつきは読みにくいかもかもしれませんが、人生で何回か読み返したくなる素敵な本です。

②913.6-サ 『シロガラス』 佐藤 多佳子 || 著 偕成社

もしも突然、超能力が使えるようになったら、あなたは どうします？

どんどん使っているいろいろな可能性をためてみる人、内緒にしてこっそり楽しむ人、人と違うことに悩んで力を失くそうとする人、もちろん使えるようになった能力にもよるでしょうが、あなたならどうするでしょう？「シロガラス」には、テレポーテーション・人の心をよむ・人を操る・集中力を発揮する・動物と会話する・人の超能力を無効化するという6つの力をそれぞれ得た6人の小学生が、白鳥神社での子ども神楽の練習を重ねながら、関係を築いていきます。個性的な6人それぞれの悩みやぶつかり合いも面白いのですが、なにやらこれから大きな事件が起こりそうな予感も気になります。作者さんは年内に4巻を出したいといっているのです、それまでにぜひ読んでみませんか。

今井司書のおすすめは…

①913.6-ミ 『火車』 宮部みゆき || 著 新潮社

高校生の時、家に山のようにあった赤川次郎と内田康夫と宮部みゆきの本を片っ端から読みふけていました。その中で、今でもよく読むのが宮部みゆきさんの本です。今回、紹介する『火車』は私が高校生の時に読んで、ラスト1ページに「えええ！！ここで終わるの！？」と衝撃を受けた1冊です。あれは本当にびっくりしたなあと、10年以上ぶりに読んでみました。カード社会の怖さ、失踪した女性を追いかける内に見えてくる驚愕の真実、結末を知りながら読んでもなお、ハラハラドキドキが止まらず一気読みでした。

②913.6-ナ 『あのとき始まったすべてのこと』 中村 航 || 著 角川書店

中村航さんは前から知っている作家で作品も読んでいたのですが、最近になって急にすごく言葉が心に染みてきます。今の自分と中村さんの描く物語は波長が合っているようです。この本の中では人と人を繋ぐ色々な奇跡が起こります。本を読んでいてこんなに胸がキュンとしたのは、ひさしぶりでした。切なくなるけど、あったかくて優しく、素直にいいなあと思える本です。読み終わった後も心地よい余韻が心の中に広がります。

